

わくわくだより 第1号

平成27年7月16日(木)
少人数・習熟度別授業担当 彌城久美・森林 さやか



習熟度別学習（中学年の部）

3年生では、「時こくと時間のもとめ方」の学習から少人数学習を行いました。学級の人数の半数である10人にして行いました。少人数にすることで、自分がたてた見通しにそって、具体物や図・言葉などを使って自分なりの考えをノートに書くようにしました。分からないときは、先生や友だちと相談して問題を解決していきました。人数が少ないので、自分の考えを発表する機会が増え、自信をつけていくことができました。発表するときは、みんなに聞こえる声で分かりやすく言うこと、聞いている人は自分の考えと比べながら聞くようにすることを指導しました。



4年生では、「わり算のしかたを考えよう」の学習から習熟度別学習を行いました。子どもたちの希望により（先生と一緒に考えるコース）と（自分の力で考えていくコース）に分かれて、学習を進めました。また、「四角形を調べよう」の学習では、垂直や平行の意味を知り、いろいろな四角形を三角定規やコンパスなどを使ってかきました。個別指導ができるところは、支援を行いました。



夏休み中の学習について

3年生の「たし算とひき算」の学習では、くり下がりのひき算の間違いが多かったです。また、「わり算」の計算のしかたは、4年生につながる大事な学習です。

4年生の「わり算」の筆算の手順「たてる→かける→ひく→おろす」は、2学期の「わり算（2）」の学習の時にも、とても重要です。

3年生も4年生も、夏休みの課題プリントをきちんと仕上げ、苦手なところを復習しておいてください。





習熟度別学習（高学年の部）



5年生では、「直方体や立方体の体積」「小数のかけ算」の学習で、習熟度別学習を行いました。先生と一緒に考えていくコースと自分の力で考えていくコースに分かれて取り組みました。どちらのコースでも、課題を明確にし、見通しを持ち、考え方をノートに書くようにしました。「小数のわり算」の学習では、小数でわる筆算の仕方を考える時間からコースを3つに分けて行いました。小数の筆算で間違いやすいのは、小数点の位置です。答えの小数点は動かした小数点の位置にうちますが、あまりが出た時の小数点はもとの位置と同じところにうたないといけません。一人一人がしっかりと筆算の仕方を習得できるよう3つのコースに分け、きめ細かく指導できるようにしました。

6年生では、「つりあいのとれた形を調べよう」「円の面積の求め方を考えよう」「文字を使って式に表わそう」「分数のかけ算・わり算を考えよう」の学習で、習熟度別学習を行いました。「つりあいのとれた形を調べよう」では、実際に図形を折ったり回転させたりして、線対称か点対称なのかを調べました。「分数のかけ算」では、単に計算の仕方だけでなく、数直線や面積図を使って答えの出し方を考えていきました。「分数のわり算」でも、分数÷分数の計算の仕方を自分なりに考えていきました。わり算のきまりを使って考える児童や、数直線・面積図を使って答えを導き出している児童もいました。また、ヒントカードも用意し、自分の考えをかくことができない児童の手助けになるようにしました。



5年生も6年生も、授業時間の最後には、“ふりかえり”をノートに書かせるようにしました。“ふりかえり”とは、その時間の学習で分かったこと・友だちの考えで良かったところ・疑問に思ったことなどを数行で書き表します。“ふりかえり”を読むことで教師も児童がどの程度理解しているかを把握し、次時の学習計画に生かすことができます。2学期も、児童が意欲的に学習できるよう指導形態を工夫していきたいと思います。



夏休み中の学習について

5・6年生とも夏休みのくらしのプリントが用意されていますので、きちんと夏休みに仕上げるようにお願いします。

特に、5年生の小数の計算では小数点の移動という点が重要になってきます。小数点の処理が上手にできるかどうか、次の学年での学習と密接に関係してきます。しっかりと復習しておいてください。

6年生の角柱と円柱の体積を考える学習では、今まで学習した図形（三角形・台形・円）の面積を求めることも必要です。面積を求める公式を忘れないよう、しっかりと復習・練習しておいてください。

